

編集後記

体育やスポーツの研究では、人間を対象とすることが多いので、びわこ成蹊スポーツ大学・学術研究倫理専門委員会規程が制定（平成22年3月）されています。

具体的には、人間を直接対象とする研究において、1) 研究の安全性の確保、2) 対象者の人権擁護のための配慮、3) 対象者に理解を求め、同意を得る方法（説明の内容等）、4) 対象者への危険性及び不利益に対する配慮、などなど。特に非侵襲性と個人情報の保護については、厳しくチェックを行うようになりました。図書・学術委員会の学術研究倫理専門委員会では、この1年だけでも17件の審査を行っています。今後、本学において研究倫理審査の位置づけは大きくなり、研究者の倫理上の責任が問われることになっていくでしょう。

今回の研究紀要第13号は、課題研究論文「暗黙知」、自由研究論文、研究報告、アカデミックアワー研究報告で構成されています。

課題研究論文では「暗黙知」をテーマに、本学でコーチングを専門とする鳥羽賢二・教授「トップアスリートのキャリアトランジション支援策の検討」と山田庸・専任講師「サッカー熟練者におけるボールポジション技能の自己評価」の2論文を掲載しました。「スポーツ学」の確立のためにも、昨年刊行された研究紀要第12号の課題研究論文「身体知」、柴田俊和・教授「運動指導と身体知」と仲宗根森敦・助教「身体知の指導に関する事例研究」と合わせてご覧いただき、活発な議論が展開されることを期待します。

自由研究論文については、紀要編集規程に基づく厳正な査読・審査の結果、2篇の研究論文が採択され掲載されています。また、研究報告として3篇の論文を掲載しました。

更に本学のユニークな研究活動であるアカデミックアワーでの研究発表を、アカデミックアワー研究報告として8編を纏めていただきました。執筆いただいた方々に、心よりお礼申し上げます。

また、投稿原稿の査読や編集に関しては、下記の方々にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

今後、紀要編集専門委員会としましても、スポーツ学の確立を目指し、研究紀要において更なる発展を図りたいと考えています。

編集協力者：新井 博，金森 雅夫，佐藤 馨，柴田 俊和，清水 史郎，新宅 幸憲，菅井 京子

Steve Jugovic，谷川 尚己，中藪 伸二，林 綾子，森川 みえこ

紀要編集専門委員会委員長 清水 史郎